

2023年度

シラバス

第3学年（第5回生）

学校法人 医療創生大学

葵会仙台看護専門学校

3 回生：教育課程・学科進度表

科目名		内容	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考	論理学	1	30		30				
		情報科学	1	30		30				
		看護物理学	1	15	15					
	人間と生活・社会の理解	音楽	1	30	30					
		倫理学	1	30			30			
		心理学	1	30	30					
		教育学	1	30			30			
		社会学	1	30	30					
		医療英語 I	1	15	15					
		医療英語 II	1	30		30				
		運動と健康	1	30	30					
		人間関係論	1	30	30					
		ホスピタリティ論	1	15	15					
小計		13	345	195	90	30	30	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造・機能学 I	1	30	30					
		人体構造・機能学 II	1	30	30					
		人体構造・機能学 III	1	30	30					
		人体構造・機能学 IV	1	30		30				
	生化学	1	30	30						
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物	1	30	30					
		栄養学	1	30		30				
		病態治療学 I	1	30		30				
		病態治療学 II	1	30		30				
		病態治療学 III	1	30		30				
		病態治療学 IV	1	30		30				
		病態治療学 V	1	30		30				
		病態治療学 VI	1	30			30			
		薬理学	1	30		30				
		リハビリテーション論	1	15			15			
	社会保険支援助と	総合医療論	1	15	15					
		公衆衛生学	1	15			15			
		社会保障	1	15			15			
		社会福祉	1	15			15			
		看護関連法令	1	15						15
		経済と看護	1	15						
小計			21	525	165	240	90	0	15	15
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論	1	30	30					
		基礎看護学援助論 I	1	30	30					0
		基礎看護学援助論 II	1	30	15	15				
		基礎看護学援助論 III	1	30	15	15				
		基礎看護学援助論 IV	1	30	30					
		基礎看護学援助論 V	1	30		30				
		基礎看護学援助論 VI	1	30		30				
		基礎看護学援助論 VII	1	15		15				
		基礎看護学援助論 VIII	1	30			30			
		基礎看護学援助論 IX	1	30			30			
	小計		10	285	120	135	30	0	0	0
	基礎看護学実習 I	1	45	45						
	基礎看護学実習 II	2	90		90					
小計		3	135	45	90	0	0	0	0	
専門分野 I 小計		13	420	165	225	30	0	0	0	
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	1	30		30				
		成人看護学援助論 I	1	30			30			
		成人看護学援助論 II	1	30			30			
		成人看護学援助論 III	1	30			30			
		成人看護学援助論 IV	1	30				30		
		成人看護学援助論 V	1	30				30		
	小計		6	180	0	30	90	60	0	0
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		30				
		老年看護学援助論 I	1	30			30			
		老年看護学援助論 II	1	30			30			
		老年看護学援助論 III	1	15				15		
	小計		4	105	0	30	60	15	0	0
	小児看護学	小児看護学概論	1	30			30			
		小児看護学援助論 I	1	30			30			
		小児看護学援助論 II	1	30				30		
		小児看護学援助論 III	1	15				15		
	小計		4	105	0	0	60	45	0	0
	母性看護学	母性看護学概論	1	30			30			
		母性看護学援助論 I	1	30			30			
		母性看護学援助論 II	1	30				30		
		母性看護学援助論 III	1	15				15		
小計		4	105	0	0	60	45	0	0	
精神看護学	精神看護学概論	1	30			30				
	精神看護学援助論 I	1	30			30				
	精神看護学援助論 II	1	30			30				
	精神看護学援助論 III	1	15				15			
小計		4	105	0	30	60	15	0	0	
臨地実習	成人看護学実習 I	3	135					135		
	成人看護学実習 II	3	135						135	
	老年看護学実習 I	2	90					90		
	老年看護学実習 II	2	90						90	
	小児看護学実習	2	90						90	
	母性看護学実習	2	90						90	
	精神看護学実習	2	90						90	
小計		16	720					225	495	
専門分野 II 小計		13	810	0	90	330	405	495	0	
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	30			30			
		在宅看護援助論 I	1	15			15			
		在宅看護援助論 II	1	30				30		
		在宅看護援助論 III	1	30				30		
	小計		4	105	0	0	45	60	0	0
	看護実践の統合	看護研究の基礎	1	30			30			
		看護管理と医療安全	1	30					15	15
		災害・国際看護学	1	15					15	15
		臨床実践の統合	1	30					15	15
	小計		4	105	0	0	30	0	45	30
臨地実習	在宅看護論実習	2	90					90		
	統合実習	2	90						90	
小計		4	180	0	0	0	0	90	90	
専門分野 I 小計				0	0	75	60	135	120	
講義時間 総計			74	1965	480	555	555	270	60	45
実習時間 総計			23	1035	45	90	225	585	90	
					135		225		675	
総時間数			97	3000	1170		1050		780	

3年次 学科目

科目名		内容	単位数	時間数	3学年		
					前期	後期	
専門基礎分	健康支援と社会保障制度	看護関連法令	1	15		15	
		経済と看護	1	15	15		
専門分野Ⅱ	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ					
		成人看護学実習Ⅱ	3	135	135		
		老年看護学実習Ⅰ	(老人保健施設実習30時間含む)				
		老年看護学実習Ⅱ		2	90	90	
		小児看護学実習	(保育園実習30時間含む)	2	90	90	
		母性看護学実習		2	90	90	
		精神看護学実習		2	90	90	
統合分野	看護の統合と実践	看護研究の基礎					
		看護管理と医療安全	1	30	15	15	
		災害・国際看護学	1	15	15		
		臨床実践の統合	1	30	15	15	
	臨地実習	在宅看護論実習		2	90	90	
		統合実習		2	90		90
			20	780	645	135	

領域	専門基礎分野		科目	看護関連法令		担当	木島 上
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
3年次	後期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
木島 上		ホテルで勤務し、接客業をした経験を有す					
到達目標		看護師に必要な保健・医療・福祉に関する諸制度とその関係法規について学び、看護の役割及び与えられた責務を正しく遂行するために、看護業務に関連する法律を理解できる。					
授業概要		保健師助産師看護師法の理解にとどまらず、わが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令についての理解を深め、生活や健康に関わる幅広い知識を学んでいく。					
学習者への期待 (含む準備学習)		看護は人間の生命に直接関わる職業であることを認識し、与えられた職責を正しく遂行するために関連する法令をしっかりと学んで欲しい。					
回数	単元		授業内容			授業方法	
1	法の概念 医事法		(1) 法の概念 (2) 医事法 (看護法・医師法医療関係資格法)			講義	
2	保健衛生法		(1) 保健衛生法 a 共通保健法 b 分野別保健法 c 感染症に関する法			講義	
3	薬務法 環境衛生法		(1) 薬務法 a 医薬品 b 毒物等 (2) 環境衛生法 a 営業 b 環境整備			講義	
4	社会保険法		社会保険法 (1) 雇用保障 (2) 年金手当			講義	
5	福祉法		福祉法 (1) 共通福祉 (2) 分野別福祉			講義	
6	労働法と社会基盤整備		労働法と社会基盤整備 (1) 労働法 (2) 社会基盤整備等			講義	
7	環境法		環境法 (1) 環境保全の基本法 (2) 公害の防止法 (3) 自然保護法			講義	
8	単位認定試験					試験	
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令 医学書院					
参考文献							
備考							

領域	専門基礎分野	科目	経済と看護	担当	加賀谷 恵美子	
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法
3年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験 100%
担当者名	担当講義に関する実務経験					
加賀谷 恵美子	病院での看護管理業務の経験あり。					
到達目標	1. 看護・医療を経済的側面から考察することができる。 2. 社会における医療費、社会保障費の動向と課題について理解できる。 3. 診療報酬制度と看護業務の関連性が理解できる。					
授業概要	今日の高齢社会の進展に伴い、国民医療費の高騰、看護師不足、病院の経営危機などの諸問題が生じており、単に財政的問題にとどまらず、看護・医療の質に関わる問題につながっている。これからの看護職を目指す者として、看護師の雇用環境や働き方、看護実践においても経済的発想を持つことが求められる。看護・医療を経済的視点から捉えて有用性を知る。					
学習者への期待 (含む準備学習)	医療従事者になる者として、また看護学生最高学年として、社会における医療費問題に関する関心と看護業務における経済的観念を自分の将来の働き方に反映できるように主体的に学習してほしい。					
回数	単元	授業内容				授業方法
1	看護と経済	<ul style="list-style-type: none"> 看護職に経済学の知識が必要な理由 看護サービスのとらえ 医療・看護サービスの特殊性 医療サービスの規制 				講義
2	社会と医療費	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障費の増大 将来人口と課題 				講義
3	医療費支払いのシステム	<ul style="list-style-type: none"> 医療費支払いシステム 医療保険 診療報酬 				講義
4	医療費の無駄と保健医療機関取り消し	<ul style="list-style-type: none"> 医療費の無駄 医療と規模の経済性 保健医療機関取り消し 				講義
5	場面ごとの診療報酬①	<ul style="list-style-type: none"> 臨床検査、放射線検査 手術 医学管理料 高額療養費制度 				講義
6	場面ごとの診療報酬②	看護業務と診療報酬(病院)				講義
7	場面ごとの診療報酬③	看護業務と診療報酬・介護報酬(在宅)				講義
8	単位認定試験					試験
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度① 医療概論 医学書院					
参考文献	ナーシング看護学テキスト 看護管理学 南江堂 診療報酬のしくみと基本 メディカ出版 イラスト図解 医療費のしくみ 日本実業出版社 中堅どころが知っておきたい医療現場のお金の話 メディカ出版 診療報酬点数早見表 医学通信社					
備考						

領域	専門基礎分野Ⅱ	科目	成人看護学実習Ⅰ (慢性期)	担当	鈴木 晴美 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法
2年次 後期 3年次 前期		3単位	135時間	1回	実習	実習評価表 100%
担当者名	担当講義に関する実務経験					
鈴木晴美	成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す					
授業内容	慢性疾患に罹患している成人の対象及び家族に対し、看護師と対象の人間関係を基盤に対象の持てる力を活用したセルフケアを目指し、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出す看護を学ぶ。					
学習者への期待 (含準備学習)	基礎看護学・成人看護学・成人看護学援助論で積み重ねた学習を振り返り、実習の目的を意識しながら臨床実習に臨んで欲しい。					
実習内容						
<p>【実習時期】 2年次12月下旬 ～ 3年次6月</p> <p>【実習期間】 3週間</p> <p>【実習目的】</p> <p>慢性疾患をもつ対象とその家族の特徴を理解し、発達段階に応じた健康障害と共に生きていくことを支える看護実践能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ対象の身体面・心理面・社会面の特徴を理解し、看護援助に活用することができる。 慢性疾患をもつ対象の看護上の問題を把握し、計画立案・実施・評価ができる。 慢性疾患をもつ対象と家族が、日常生活のなかで自己管理と適応がはかれるように対象の持てる力を活用したセルフケアを目指した看護援助ができる。 看護スタッフや他の医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、その機能を理解し医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶ。 看護学生としての学ぶ姿勢と誠実で責任ある態度をとることができる。 <p>【実習計画】</p> <p>※ 実習計画実習スケジュールは、学内実習及び臨地実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内実習では、看護過程の展開（紙上事例）を行い、また、技術演習の中で慢性期患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク・DVDや文献で学習する。 臨地実習では、慢性期にある患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 						
教科書						
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。					
備考	詳細は実習要項を参照					

領域	専門基礎分野Ⅱ	科目	成人看護学実習Ⅱ (急性期)	担当	鈴木 晴美 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法
3年次 前・後期		3単位	135時間	1 回	実習	実習評価表 100%
担当者名	担当講義に関する実務経験					
鈴木 晴美	成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す					
授業内容	周手術期の患者、慢性疾患の急性増悪患者など侵襲的な治療検査を受ける成人患者・家族を多面的に理解し、看護過程を通して侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように看護を学ぶ。					
学習者への期待 (含準備学習)	基礎看護学・成人看護学概論・成人看護学援助論で学んだ知識・技術をもって、実習の目的を意識しながら臨地実習に臨むようにしましょう。急性期・周手術期、特に手術直後の患者は容態や治療経過の変化が早いので、主体的・積極的に看護展開ができるようにして欲しい。					
実習内容						
<p>【実習時期】 3年次 5月～10月</p> <p>【実習期間】 3週間</p> <p>【実習目的】</p> <p>急激な身体侵襲により、生命の危機や身体の苦痛が大きい状態にある患者及び家族の特徴を理解し、侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように基礎的な実践能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期にある対象の心理・身体・社会的影響を理解し、対象が心身共に良好な状態で検査・治療を受ける為の看護援助に活用できる。 急性期にある対象の看護上の問題を把握し、計画立案・実施・評価ができる。 手術などの侵襲的検査・治療を受ける対象の侵襲に伴う変化を理解し、合併症を予防し心身の回復と日常生活への適応に向けた看護援助ができる。 看護スタッフや他の医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、その機能を理解し、医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶ。 看護学生としての学ぶ姿勢と誠実で責任ある態度をとることができる。 <p>【実習計画】</p> <p>※ 実習スケジュールは、学内実習及び臨地実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内実習では、看護過程の展開（紙上事例）を行い、また、技術演習の中で急性期患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク・DVDや文献で学習する。 臨地実習では、学生1～2名で急性期にある患者1名を受け持ち、術前・術後の看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 						
教科書						
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。					
備考	詳細は実習要項を参照					

領域	専門分野Ⅱ		科目	老年看護学実習Ⅰ		担当	桐田 三世 他
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法	
2年次 3年次	後期 前期	2単位	90時間	2週間	実習	実習評価表	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
桐田 三世		臨床での看護実践、管理業務、看護教員と看護全般にわたる経験を有する					
授業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターの制度上の意義と活動を理解し、健康維持やQOL向上のための活動に参加させていただく。 ・介護老人保健施設では入所者の方を受け持ち、生活支援を視点とした問題の抽出と残存機能を意識した日常生活援助の実践を学ぶ 					
学習者への期待 (含む準備学習)		健康維持のためにがんばっている高齢者と接し、その心理や生きがい・QOLなどが考えられるようになってほしい。					
実習内容							
<p>【実習期間】 2年後期～3年前期</p> <p>【実習目的】 地域や施設における高齢者との関わりを通して、対象者を生活者として理解し、高齢者の持てる力に着眼した看護を実践する能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康な高齢者との触れ合いを通して、暮らしや健康への思いを知り、健康維持のために老人福祉センターの果たす役割について理解できる。 2 施設における各職種の役割と協働・連携の重要性、看護師の役割が理解できる。 3 加齢変化や健康課題を持ちつつ生きる老年期にある対象の特徴について理解する。 4 対象の生活機能上の課題に応じた援助が実践できる。 5 自己の老年観・看護観を確認することができる。 6 看護学生として望ましい態度を身に付けることができる。 <p>【実習計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターは主体事業への参加または、デイサービス、サークルなどに参加させていただき高齢者の方との関わりを通し、老年観を深める。 ・介護老人保健施設実習においては、1名の方を受け持ち、生活者の視点で情報収集し必要な援助を考え、スタッフの援助に参加させていただく。介護保険制度の理解や多職種の連携と役割について学ぶ。 							
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた、老年看護過程 医学書院					
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。					
備考		詳細は実習要項を参照					

領域	専門分野Ⅱ		科目	老年看護学実習Ⅱ		担当	桐田 三世 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法		
3年次	前期 後期	2単位	90時間	2週間	実習	実習評価表		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
桐田 三世		臨床での看護実践、管理業務、看護教員と看護全般にわたる経験を有する						
授業の概要		入院中の健康障害を有する高齢者を受け持ち、生活が健康に及ぼす影響を知り、健康の保持・増進、疾病の予防に向けた適切な援助を日常生活に視点をおき看護過程を展開し必要な援助を考え実践する。						
学習者への期待 (含む準備学習)		老化に伴って起こる疾病や障害を理解し、「できること」や「可能性」を大切に、その人らしさを尊重した関わりを意識して看護過程展開ができるようになってほしい。						
実習内容								
<p>【実習期間】 3年次後期</p> <p>【実習目的】 老年期にある受け持ち患者とその家族を総合的に理解し、受け持ち患者の健康上の問題に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老年期にある対象の身体的、心理的、社会的側面と生活史や生理的機能低下及び健康の段階から総合的に理解する。 2 健康障害により生活機能が低下した対象の残存機能を把握し、それを最大限活用出来るような看護を計画し、実践、評価する。 3 老年期にある対象に対し、保健・医療・福祉チームにおける連携の必要性を理解する。 4 老年期にある対象の生活信条、信念、価値観を尊重した行動がとれる。 <p>【実習計画】</p> <p>実習病院において一人の高齢者を受け持ち、情報収集し看護過程の展開を行い、必要な援助を実践する。</p>								
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた、老年看護過程 医学書院						
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考		※詳細は実習要項を参照						

領域	専門分野Ⅱ	科目	小児看護学実習	担当	庄司 宗和 他
開講年次・開講時期	単位数	時間数	授業形態	評価方法	
2年次 後期 3年次 前期	2単位	90時間	実習	実習評価表	100%
担当者名	担当講義に関する実務経験				
庄司 宗和	小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有す				
授業概要	保育所・病棟実習を通じて、成長・発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障害の有無にかかわらず、より良い発達を遂げるための看護を実践する。				
学習者への期待 (含む準備学習)	大切な基礎である病態をしっかりと学び、看護援助の根拠として欲しい。小児看護学で学んだ看護過程の展開についての知識を復習して臨むことを期待する。				
実習内容					
<p>【実習時期】 2年次後期から3年次前期まで</p> <p>【実習期間】 2週間</p> <p>【実習目的】 成長・発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障害の有無にかかわらず、より良い発達を遂げるための看護を実践する能力を養う</p> <p>【実習目標】</p> <p style="padding-left: 20px;">(保育所実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康な乳幼児の成長発達及び、個別性を理解できる 2 健康な乳幼児の特徴を踏まえ、成長発達を促すための養育の実際を理解できる 3 健康な乳幼児の保育環境について、安全と保育衛生の面から理解することができる 4 看護者としての望ましい態度が自覚できる <p style="padding-left: 20px;">(病棟実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康障害を持つ小児の特性を理解し小児とその家族の抱える問題を捉えることができる 2 健康障害を持つ小児の健康問題の解決を目指すとともに、成長発達を促せるよう小児とその家族に適切な援助を行うことができる 3 他の職種との連携の必要性について考え、看護の役割について理解することができる 4 健全な小児観を養うとともに、小児看護の在り方について考えることができる <p>【実習計画】</p> <p style="padding-left: 20px;">保育所実習では正常な発育の子どもと環境を観察し、養育の実際を体験する。</p> <p style="padding-left: 20px;">実習病院では一人の子どもと家族を受け持ち、看護過程の展開を行ない必要な援助を実践する。</p>					
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ				
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。				
備考					

領域	専門分野Ⅱ		科目	母性看護学実習		担当	野辺地 郁子 鈴木 晴美	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次 3年次	後期 前期	2単位	90時間	10日間	実習	実習評価表		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
野辺地 郁子		助産師としての実務経験あり。						
鈴木 晴美		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
授業概要		妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象及びその家族への看護や母子・家族支援のための社会資源の活用の実際の場面を見学することから、看護の役割と責任を学ぶと共に対象に看護を実践する基礎能力を養う。						
学習者への期待 (含む準備学習)		妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期などの対象の一般的な特徴に関する知識の整理を臨地実習の大切な準備と考えて、限られた期間の実習に体調を整えて臨んでほしい。						
実習内容								
<p>1 実習目的</p> <p>女性を取巻く環境の変化や妊娠・分娩・産褥における母性の特徴を理解し、妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族を対象に看護を実践する能力を養う。</p> <p>2 実習目標</p> <p>(1) 妊娠期、分娩期、産褥期及び新生児期の特徴を理解し、母子及びその家族への母性看護に必要な看護技術を学ぶことができる。</p> <p>ア 妊娠期</p> <p>(ア) 妊婦健診や妊婦対象の教室等を通して、妊娠の経過を学び必要な援助が理解できる。</p> <p>(イ) 対象への保健指導を理解できる。</p> <p>イ 分娩期</p> <p>(イ) 分娩第1期、2期、3期、4期の定義と看護援助について学び、必要な援助ができる。</p> <p>(ロ) 陣痛緩和の方法を学び、活用できる。</p> <p>ウ 産褥期</p> <p>(ウ) 身体的・心理的变化及び子育て環境について理解できる。</p> <p>(エ) 子宮復古・感染予防に関する指導と看護について理解できる。</p> <p>(オ) 母子相互関係の確立を図るための看護について理解を深めることができる。</p> <p>(カ) 父子関係の確立を図るための看護について理解できる。</p> <p>エ 新生児期</p> <p>(エ) 出生直後の新生児の観察ができる。</p> <p>(イ) 各種計測（バイタルサイン、頭囲、胸囲、身長、体重）が正しくできる。</p> <p>(ロ) 新生児の健康状態のアセスメントができる。（生理的体重減少、生理的黄疸）</p> <p>(2) 母子保健に関連する法規や制度についての学びを基に、母子及び家族支援のための社会資源について理解することができる。</p> <p>(3) 対象者を取巻く医療チームの構成と役割を知り、チームの一員としての看護の役割と責任を学ぶことができる。</p> <p>(4) 専門職者として守るべき看護倫理について考え、行動できる。</p> <p>3 実習計画</p> <p>(1) 病院・助産院・診療所等の施設で実習を行う。</p> <p>(2) グループを編成し、1実習施設に1グループを配置する。</p> <p>(3) 対象1名の受け持ち又は、診察・看護援助や保健指導場面の見学を通して学ぶ。</p> <p>(4) 状況に応じて実習指導者と共に援助を行い、看護の役割を学ぶ。</p> <p>5 実習時間</p> <p>原則 8：30～16：30</p>								
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院						
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考								

領域	専門分野Ⅱ		科目	精神看護学実習	担当	一ノ瀬 まきの 他
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業形態	評価方法	
3年次	前期	2単位	90時間	実習	実習評価表	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験				
一ノ瀬 まきの		精神看護学に精通				
授業概要		臨地実習を通して、精神に障害のある対象を尊厳のある人間として理解し、療養生活を余儀なくされた対象及び家族に対する看護の実践を学ぶ。				
学習者への期待 (含む準備学習)		病態などの基礎的知識を理解し、個別性を踏まえた看護過程を展開できるようになってほしい。				
実習内容						
<p>【実習時期】 2～3年次 2月～9月</p> <p>【実習期間】 2週間</p> <p>【実習目的】</p> <p>精神に障害のある対象を尊厳のある人間として理解し、病院での療養生活を余儀なくされた対象及び家族に対して看護を実践できる基礎能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神に障害のある対象及び家族の状況や抱える心理的負担を理解する。 2 社会生活に適応することを目指した日常生活の自立への援助を実践できる。 3 尊厳のある人間としての患者-看護師間の相互関係を構築して、自己の援助的関わりの振り返りができる。 4 精神医療における看護の役割・機能を理解する。 5 他職種との連携について理解する。 6 看護学生として望ましい態度を身に付けることができる。 <p>【実習計画】</p> <p>実習病院では一人の対象者を受け持ち、情報収集し看護過程の展開を行い、必要な援助を実践する。</p>						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（1） 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（2） 精神看護の展開 医学書院					
参考文献	薄井坦子 科学的看護論 日本看護協会出版会					
備考						

領域	統合分野		科目	看護管理と医療安全論(1) (看護管理)		担当	山本 澄子 加賀谷 恵美子	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
3年次	前期	1単位	14/30時間	7/15回	講義	単位認定試験		50%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
山本 澄子		看護管理業務、看護教育と看護全般にわたる経験を有する						
加賀谷 恵美子		看護管理業務、教務主任業務の実務経験あり						
到達目標		保健医療施設などにおける組織的看護サービス・管理の本質を学び、管理的思考や医療を取り巻く環境の変化について理解する。						
授業概要		看護のマネジメントは人・物・金・情報などの資源を効果的・効率的・安全に活用して理想とする看護を提供するプロセスである。						
学習者への期待 (準備学習含む)		2年次までの各領域の知識を復習し、看護師として組織の中で働くための必要な知識であることを踏まえ、主体的に学習に臨んでほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法・担当	
1	看護とマネジメント		<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理学とは ・看護におけるマネジメント 				講義・山本	
2	看護職のキャリアマネジメント		<ul style="list-style-type: none"> ・看護職のキャリア形成 ・タイムマネジメント・ストレスマネジメント 				講義・山本	
3	看護サービスのマネジメント		<ul style="list-style-type: none"> ・組織目的達成のマネジメント ・看護サービス提供の仕組みづくり ・人事・施設・物品・情報・リスクのマネジメント ・サービスの評価 				講義・加賀谷	
4								
5	マネジメントに必要な知識と技術		<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップとマネジメント ・組織の調整 				講義・加賀谷	
6	看護を取り巻く諸制度		<ul style="list-style-type: none"> ・看護職 ・医療制度 ・看護政策と制度 				講義・加賀谷	
7	看護管理の実際						講義・山本	
8			単位認定試験				試験	
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	統合分野		科目	看護管理と医療安全論(2) (医療安全)		担当	桐田 三世	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
3年次	前期	1単位	16/30時間	8/15回	講義	単位認定試験	50%	
担当者名		担当講義に関する実務経験						
桐田 三世		医療安全管理者としての実務経験あり						
到達目標		人は間違いをおかす存在であることを自覚したうえでエラーを防止するために、看護業務や行為の視点からしてはならないこと」「すべきこと」を明確にし、患者の安全を守るために必要不可欠な知識・技術を習得する。						
授業概要		医療現場で起こりうるさまざまな看護事故の種類について実際の例を基に学び、その防止についても理解を深める。						
学習者への期待 (準備学習含む)		看護師は最終的な医療行為者や観察者となることを認識しつつ、観察の不足が重大事故に繋がる日常に身を置くことを考えながら真剣に取り組んでほしい。						
回数	項目		授業内容			授業方法・担当		
1	医療安全を学ぶことの大切さ		<ul style="list-style-type: none"> 人はなぜ間違いを犯すのか 医療事故とは 医療安全に関わるキーワード 			講義		
2	診療の補助の事故防止		<ul style="list-style-type: none"> 注射業務と事故防止 注射業務に用いる機器での事故防止 輸血業務と事故防止 			講義		
3			<ul style="list-style-type: none"> 内服与薬業務と事故防止 経管栄養（注入）業務と事故防止 チューブ管理と事故防止 					
4	療養上の世話の事故防止		<ul style="list-style-type: none"> 転倒、転落・窒息・誤嚥・異食・入浴中の事故防止 			講義		
5	医療安全とコミュニケーション 看護師の労働安全衛生上の事故防止		<ul style="list-style-type: none"> 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 職業感染 抗がん剤の暴露・放射線暴露・ラテックスアレルギー・院内暴力 			講義		
6	組織的な安全管理体制への取り組み		<ul style="list-style-type: none"> 組織としての医療安全対策 我が国の医療安全対策の潮流 			講義		
7	医療安全の実際					講義		
8	単位認定試験(看護管理と医療安全)					試験		
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院						
参考文献		医療におけるヒューマンエラーなぜ間違えるどう防ぐ(第2版) 河野龍太郎 医学書院 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 川島みどり 医学書院 ヒヤリ・ハット11,000事例によるエラーマップ完全本 川村治子 医学書院 医療事故 看護の法と倫理の視点から(第2版) 石井トク 医学書院						
備考								

領域	統合分野		科目	災害・国際看護学		担当	加賀谷 恵美子 佐々木 麻未 飯牟禮 明子	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
3年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
加賀谷恵美子		防衛省における災害派遣の経験あり。						
佐々木 麻未		手術センター看護師として病院勤務 資格：手術看護実践指導者看護師・ICLS認定インストラクター・宮城DMAT						
飯牟禮 明子		海外青年協力隊での海外看護活動の実績あり。						
到達目標		(1)災害医療・看護の概念と災害各期の看護を学び、災害時における看護の役割について理解できる。 (2)世界の保健・医療の現状を知り、国際救援活動と国際看護活動における看護の必要性和役割について理解できる。						
授業概要		(1)災害における健康問題と医療・看護の基礎知識を災害サイクルに沿って学ぶ。 (2)医療・看護の国際協力とそのしくみ、活動の実際などを学ぶ。						
学習者への期待 (準備学習含む)		災害は、地域の人々の暮らしと密接に関連しながら健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康ニーズに応じた看護の必要性和役割を認識してほしい。また、国際化、グローバル化されている現代社会における看護の役割や身近な外国人への医療支援の必要性和理解してほしい。						
回数	項目		授業内容			授業方法・担当		
1	災害医療の基礎知識		・災害看護の歩み・災害の定義 ・災害の種類と健康被害 ・災害と情報(災害看護と情報)			講義：加賀谷		
2			・災害看護の定義と役割 ・災害看護の対象 ・災害看護と救急看護の基本的な違い ・災害看護と法律(災害対策基本法・災害救助法)			講義：加賀谷		
3	災害サイクルに応じた災害看護		・災害サイクルとそれに応じた災害看護活動 (急性期・亜急性期・慢性期・復興期・静穏期)			講義：加賀谷		
4	被災者の特性に応じた災害看護		・子供・妊産婦・高齢者・障害者・精神障害・慢性疾患 ・原子力災害・在留外国人			講義：加賀谷		
5	避難所における健康と生活支援		・避難所(看護の役割・種類・運営) ・災害と感染予防 ・災害とこころのケア			講義：加賀谷		
6	災害看護の実際		・災害医療実施のための体系的アプローチ(CSCATTT) ・ トリアージ・DMAT・DPAT・DHEAT			講義・佐々木		
7	国際看護への理解		・国際看護とは ・日本における国際看護 ・海外における災害看護と国際看護活動			講義・飯牟禮		
8	単位認定試験・まとめ					試験		
教科書		系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	統合分野		科目	臨床実践の統合		担当	加賀谷 恵美子		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
3年次	前期 後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	レポート	60%	演習評価	40%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
加賀谷 恵美子		看護部・看護教育機関における管理者・教育者としての実務経験あり							
到達目標		1 看護管理に関する演習を通し、卒業後、臨床実践に進むための準備性を高めることができる。 2 看護実践能力を評価し、専門職としての自己の課題を明確にする。							
授業概要		統合演習では、本学での3年間で履修した学びの総まとめとなる統合実習がスムーズに実習できるように、その準備を行い、実習後の演習では、統合実習での学びを通して自己の看護の実践能力（知・技・心）を評価し、発表の場を設け専門職としての自己の課題を明確にする内容とする。							
学習者への期待 (準備学習含む)		今までの臨地実習を振り返り、自己の課題や技術経験の不足などを踏まえ統合実習の準備ができる。複数受け持ちの場合の優先すべき根拠を明確にし、考えられるようになってほしい。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	看護管理演習		<ul style="list-style-type: none"> 交代勤務 コミュニケーション演習 コンプライアンス 入院時病歴聴取 				講義：加賀谷 演習		
2									
3									
4									
5									
6	多重課題対応		<ul style="list-style-type: none"> 複数患者受け持ちを想定した1日の業務計画立案 多重課題対応について（講義、演習、振り返り） 				講義：加賀谷 演習		
8	実習のまとめ		<ul style="list-style-type: none"> 実習のまとめ (KJ法にて、グループワーク、発表) 				演習：加賀谷		
9									
11			発表				演習：加賀谷		
12									
13	看護観		<ul style="list-style-type: none"> 自己の看護観の整理（論文作成） 				演習：加賀谷		
14									
15									
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院							
参考文献									
備考									

領域	統合分野	科目	在宅看護論実習	担当	稲邊照子・伊藤明美 藤原恵理香・小林 透	
開講年次・開講時期		単位数	時間数	授業形態	評価方法	
3年次 前期 3年次 後期		2単位	90時間	実習	実習評価表	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験				
稲邊照子		看護実践、看護教員の経験を有する。				
伊藤明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有する。				
藤原恵理香		保健師の資格を持ち、急性期・慢性期病棟で臨床看護実践経験を有する。				
小林 透		看護実践、看護教員の経験を有する。				
授業概要		訪問看護ステーション、通所リハビリテーション、居宅事業所の実習を通し、在宅療養者とその家族の生活を理解し、在宅看護を实践するために必要な基礎的能力を習得する。また、病院・地域社会の看護の継続性とそのために必要な社会資源の活用や多職種との連携・協働について理解する。				
学習者への期待 (含む準備学習)		臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨んでください。				
実習内容						
<p>【実習時期】 3年次前期・後期(2020年5月～10月)まで</p> <p>【実習期間】 2週間</p> <p>【実習目的】 地域で療養しているあらゆるライフステージにある対象者とその家族を理解し、健康レベルに応じた援助を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域で療養する対象者と、その家族の生活状況を知り、疾病や障害が生活に及ぼす影響を理解することができる。 2 在宅療養生活が継続するための個別の看護を理解できる。 3 社会資源の活用及び関係職種との連携・協働の必要性が理解でき、看護職の果たす役割が考えられる。 4 在宅看護を学ぶ学生として望ましい態度を身につけることができる。 <p>【実習計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護ステーション：同行訪問4日間、振り返り、事例検討会2日間（学内） <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護師とともに在宅療養者宅を同行訪問をし、訪問看護の看護援助の実際を学び、訪問看護の役割や生活環境の場に応じた看護援助を体験する。 2) 通所リハビリテーション、居宅支援事業所：実習2日間、振り返り1日（学内） <ul style="list-style-type: none"> ・通所リハビリテーション施設でスタッフの方とともに利用者のケアに参加したり、利用者の方々との関わりを通して、在宅生活の理解を深め、利用者・家族を支援する社会資源の意味を考える。 ・介護支援専門員から利用者宅の訪問や関係機関との連絡調整などケアマネジメントの援助の実際について説明を受け、ケアマネジメントの展開、ケアマネジャーの役割や連携の必要性を学ぶ 						
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 在宅看護論 在宅療養を支える技術				
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。				

備考	
----	--

領域	統合分野		科目	統合実習		担当	加賀谷 恵美子 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法		
3年次	前期 後期	2単位	90時間	2週間	実習	実習評価表		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
加賀谷 恵美子		看護部・看護教育機関における管理者・教育者としての実務経験あり。						
授業の概要		看護チームの一員として複数の患者を受け持ち、対象がもつ健康問題を生活者としての視点で全体的に把握し、保健・医療・福祉その他の関連機関とのチーム医療を通して、総合的な看護援助を行う。この看護援助を通して総合的な看護実践能力を培う機会とする。						
学習者への期待 (含む準備学習)		“タイムマネジメント”・“優先順位”・“チーム医療”・“組織の中でのそれぞれの看護師の役割”について考える機会にしてほしい。						
実 習 内 容								
<p>【実習期間】 3年次8月～10月</p> <p>【実習目的】 既習の知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員として対象に応じた看護実践能力を養い、専門職業人としての自覚と責任を醸成する。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 病院組織における看護サービスについて理解する。 2 医療安全の実際を理解し、医療安全文化の醸成と関連付けて考えることができる。 3 多重課題への対応について考えることができる。 4 複数受け持ち患者への適切な看護を考え、基本的な看護の実践ができる。 5 自己の看護観を深め専門職業人として自己の課題を明確にし、自己研鑽する姿勢を身につける。 <p>【実習計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習病院において複数の患者を受け持ち、情報収集し優先順位の根拠を考え必要な援助をグループで協力し実践する。 ・看護チームに対する理解をふかめるため、チームリーダーからの説明や行動を共にし、退院調整などの他職種を交えたカンファレンスに参加することでチーム医療の実際を学ぶ。 ・看護管理の業務を知るために、看護師長からの説明や行動を共にし、管理の実際を学ぶ。 								
教科書		既習の教科科目及び参考図書						
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考		※詳細は実習要項を参照						

第5回生

学籍番号

氏名

葵会仙台看護専門学校

(TEL 022-380-1122)